

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年4月28日

社会福祉法人撫子会 なでしこ保育園

1. 令和2年度に主に取り組んできた重点事項と取り組み状況

	重点事項	具体的な取り組み方法	評価	取り組み状況
1	専門性の向上と、より質の高い保育を実現するための取り組み	①児童が主体的に関わり、遊びの深まりや広がり生まれる環境(園庭・室内)をつくるための取り組み ②異年齢交流による年長者への憧れや年少者への思いやりの心を育むための取り組み。 ③グループ施設や職員間の連携を取り、安定した運営へつなげていく。	B	一人ひとりの子どもに寄り添い、気持ちの安定が図れるよう、職員間で共通理解をして対応した。また、乳児クラスは、子どもが安心感と信頼感をもって過ごせる場所となるよう環境作りに取り組んだことで、落ち着いて生活することができた。 今年度は新型コロナウイルス感染症予防から、異年齢交流の場を設ける機会は少なかったが、生活や行事を通して年長児のがんばっている姿を披露したり集会で伝えていくことで、それぞれのクラスで意欲的な姿がみられる。
2	保護者支援	保護者の家庭状況が大きく児童に反映されていくために、児童や保護者の変化を常を感じ取り、都度相談に応じたり支援できる体制にしていく。	B	子どもの様子を伝えるだけではなく、子育てにとって大切なことなど、園での生活の中で気付いたことを保護者と共に考え、解決をしていくようにした。 感染症対策など、十分に行い、保護者が安心して預けられるよう努めた。
3	職員の働き方改革・働きやすい職場への取り組み	①職務内容を明確にし、雇用形態による待遇差の解消を行う。 ②職務負担軽減や事務作業の効率化を図り、残業時間の削減に取り組む。 ③ストレスチェック・健康診断の結果のフォローとメンタルヘルス対応、職員との面談や相談を積極的に行い、より良い職場環境作りに取り組む。	A	今年度、異動や新人の職員が多く配置され、園全体で職務内容の確認をし、雇用形態による処遇差のないよう見直しを行った。 シフト管理において事務作業時間が取れるよう工夫し、余裕をもって仕事に取り組める環境を整えた。 定期的に職員との面談や相談を行い、職員の困り感に寄り添えるように努めた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

2. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育を振り返り、気になる子の姿を話せる機会を設け、個々に応じた具体的な手立てを考える。 今年度、施設整備(未満児トイレの扉設置)、またコロナ感染症対応もあり衛生面には十分心掛け、流行性の疾患を最小限に抑えることに努めた。 キャリアアップ研修に参加し、保育者としての成長に繋がったと思う。 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について、園児の安全に対する意識や習慣が身に付くよう努めた。尚一層、感染対策また地震等の予測が困難な自然災害についても、見直していく。

3、自己評価の項目ごとに評価しました。

- a よりよい保育の水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
- b aに至らない状況、多くの施設の状態「a」に向けた取組みの余地がある状態
- c b以上の取組みとなることを期待する状態

回答数 32名

1-1 全体の計画の編成

① こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて教育・保育課程を編成している。

a 72% b 28% c 0%

- ・教育保育課程に応じて保育ができるよう取り組んでいる
- ・保育の評価を行い、来年度の保育に活かしたり改善したりそれぞれ考えながら保育をすすめていきたい

1-2 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。

a 41% b 56% c 3%

- ・子ども達に快適な環境を整え、保育ができていると思う。
- ・室温、温度、換気に心がけ消毒清掃し子どもたちが心地良くすごせる環境作りをしている。

② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

a 50% b 47% c 3%

- ・せかす言葉、制止の言葉は意識はしているが、とっさに出てしまうのもっと気をひきしめて取り組みたい。
- ・毎日の子ども達の様子、発達過程を理解し、保育ができていると思う。
- ・子どもが安心して過ごせるように配慮している。
- ・保育士一人ひとり、子どもを理解してかかわることに努めている。

③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。

a 59% b 41% c 0%

- ・生活習慣を身につけるには時間がかかるが、できるよう手助けしたり待ったり、援助ができていると思う。
- ・出来る事を増やして出来たらたくさんほめて成長につなげていく。
- ・命令的な言葉をつかわないよう気をつけている。自分でやってみようという気持ちになるよう楽しめる声かけなど次につながる声かけに留意している。
- ・年齢、月齢、発達状況に応じて援助するよう心がけている

④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

a 47% b 53% c 0%

- ・主体的に活動するのは年齢的に難しい（0歳児）と思うがいろいろな遊具、玩具に触れ、自由に遊べる環境を保育教諭が整えていると思う。
- ・子どもが主体的に活動できる環境の工夫はもう少しできると考えるため、日々、考え実践したい。
- ・コーナーあそびを充実させたり、友だちとの関わりを増やせるように促したりすることができた。
- ・個から集団への移っていく時期、子どもの自発性をより発揮できる環境作りの工夫が必要かと思う。

⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a 76% b 24% c 0%

- ・一人ひとりの関わりを大切にしていると思う。
- ・安心してのびのびと過ごせるよう配慮している
- ・乳児保育室を見直し、改善できた箇所が多かった。

⑥3歳未満児（1.2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a 59% b 38% c 3%

- ・子ども同士のトラブルが多くなる年齢だが、思いを受けとめ、関わりを持ちながら保育できている。
- ・やっではないけなことが多いような気がする。
- ・探索活動が十分に行える環境にない箇所がある。

⑦3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a 83% b 17% c 0%

- ・保育教諭以外の大人との関わりは少なかった。

⑧障害のある子どもが安心して生活ができる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a 43% b 46% c 11%

- ・障がい児というくりにとらわれず、全ての子どもにわかりやすい環境作りをしていけると思う。
- ・会議報告等で聞いたことを実際クラスに入った時意識するようにしている
- ・建物、設備については障がいによっては難しいところもあると考えるため。

⑨長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a 45% b 48% c 6%

- ・様子を聞いたり配慮すべき事を聞いたりしながら協力できたと思う。
- ・夕方、静、動の時間が少ない。
- ・延長保育を利用する子はゆったりと過ごせるよう配慮している。
- ・子どもの様子などクラス内では確認や伝言など気を付けながら保育するよう心掛けてすごしている。

⑩小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

a 62% b 38% c 0%

- ・小学校との連携が数回あるのは良いと思う。小学校から生活の中で重視してほしいことを教えてもらい保育に活かしたい。

1-3 健康管理

①子どもの健康管理を適切に行っている。

a 67% b 30% c 3%

- ・日々の体調、怪我などについて把握できるように努めていると思う。ただ、日によって入るクラスが違くと把握するのが難しい。
- ・看護師と協力して取り組むことができている
- ・日頃の健康管理に関することは適切に行うよう努力している。

②健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。

a 74% b 26% c 0%

③アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて医師からの指示を受け適切な対応を行っている

a 55% b 38% c 7%

- ・一人ひとりの疾患について理解し、適切な対応を行っていると思う。
- ・医師からの指示を受けて対応しているが、食べられる年代になっているのに、保護者が進める気持ちがあすい。就学時前までにとあわてることがある。

1-4 食事

①食事を楽しむことができるよう工夫している。

a 61% b 39% c 0%

- ・苦手なものでも、声かけで一口でも口にしようとしたり、頑張っって残さず食べたりできていたと思う。
- ・発達に合わせて食器の持ち方を教えたり、箸を用意したりすることができた。

②子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。

a 63% b 37% c 0%

- ・リクエストメニューなど子ども達から聞き取り、献立に取り入れ子どもたちからも好評である。

2-2 保護者等の支援

①保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。

a 59% b 34% c 7%

- ・保護者と日々の生活の中で子どもの成長と一緒に喜んだり共感することができたと思う。
- ・常に報告相談できる環境である。
- ・コミュニケーションを取りながら相談に応じられるよう配慮している

②家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期対応及び虐待の予防に努めている。

a 50% b 47% c 3%

- ・不審な傷など職員間で話したり、共通認識を持ったりしながら保育できたと思う。
- ・発見した際の早期対応について改めて確認したいと感じたため。
- ・会議で気になる子など職員に伝えて皆で理解している。
- ・子どもの心身の状態を把握したり、保護者の精神面の援助などに努める。

3-1 保育実践の振り返り（保育教諭等の自己評価）

①保育教諭等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている

a 47% b 50% c 3%

- ・PDCA サイクルがうまく機能していない。もう少し取り入れていかなければならない。
- ・日々の保育について手を抜いているつもりはないが、反省や意識の向上という点で、もう少しできることがあったのでは、と思う。
- ・記録等目を通すのみで理解まで深く読み込んでいない時がある。

4、令和3年度に取り組む重点事項と取り組み方法

	重点事項	具体的な取り組み方法
1	保護者支援	保護者の育児や子どもの家庭環境等の相談支援に取り組むために、日常的な会話や面談の機会を積極的に増やすよう努める。また、職員間で情報共有を密にしながら、地域のネットワーク（所轄庁、地域の保健師、病院、療育センター、小学校など）を活用し、総合的な支援体制を整えることに努める。
2	食育の充実	保育従事者と調理従事者の交流の場を増やすことで連携を密にし、子ども達の食事に対する願いや思いを食育活動に反映させるよう努める。
3	保育環境の充実	教育活動において、子ども達が主体的に遊びに取り組める環境を整えるために、日々の保育の振り返りを深め、室内環境の見直し・実践につなげられるよう取り組む。
4	働きやすい職場	保育が楽しいと感じることができる職場づくりを目指すために、雇用条件によって働きやすさに違いが生じないように、業務分掌によりそれぞれの役割を明確にすることで、職員一人一人が互いに協力し生き生きと活躍できる環境を整える。また、職員間のハラスメント防止の意識を高めるために、周知・啓発等を行う。

5、学校関係者評価委員会の評価

令和3年4月22日(水) 学校関係者評価委員会を開催

出席者 地域

有識者1名 保護者会代表1名 園長 主幹保育教諭

- ・近年、保護者の考えが多様化しているように感じるが、丁寧に取り組み保育しているので、安心して子どもを預けていると思う。
- ・このような取り組みをしていることに感心した。保護者として十分な対応をしてもらっていると感じていたので、園・先生方に自信を持ってほしい。
- ・英語や体育のほかに就学前には簡単なプリントに取り組む時間も作ってもらっていて嬉しい。
- ・コロナ禍のため、異年齢交流が難しい中、各クラスの頑張りを伝え合う場をつくるなど、工夫して取り組んでいる様子が感じられた。

学校関係者評価委員の方から頂いたご意見やご感想を受け止め、さらに良い教育、保育を行って参ります。
ありがとうございました。